



平成30年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年7月7日

上場会社名 ダイユー・リックホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3546 URL <http://www.daiyulic-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅倉 俊一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営戦略室長 (氏名) 三瓶 善明 (TEL) 024-563-6818
 四半期報告書提出予定日 平成29年7月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第1四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第1四半期	19,938	—	706	—	756	—	500	—
29年2月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 30年2月期第1四半期 502百万円(—%) 29年2月期第1四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第1四半期	33.94	33.77
29年2月期第1四半期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第1四半期	55,593	12,864	21.2
29年2月期	52,381	12,557	22.0

(参考) 自己資本 30年2月期第1四半期 11,837百万円 29年2月期 11,534百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	—	—	13.00	13.00
30年2月期	—	—	—	—	—
30年2月期(予想)	—	13.00	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
第2四半期(累計)	40,000	—	1,250	—	1,320	—	800	54.24
通期	79,000	—	1,800	—	1,930	—	1,200	81.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期1Q	15,174,203株	29年2月期	15,174,203株
② 期末自己株式数	30年2月期1Q	427,819株	29年2月期	427,483株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期1Q	14,746,563株	29年2月期1Q	—株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(セグメント情報等)	10
4. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成29年3月1日～平成29年5月31日)におけるわが国の経済は、上場企業の配当額が5年連続で過去最高を更新する等、企業収益の改善・雇用の拡大もあって景気は緩やかながら回復基調を維持しております。

一方で、原油価格の下落、新興国経済の減速を背景とした世界経済の不安定化のほか、日本銀行によるマイナス金利政策実施の影響も見通せず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

個人消費は、消費税率引き上げ後の需要の弱さを可処分所得の増加でカバーできない構造から横ばいの状況にあり、「低価格志向・節約志向」といった消費マインドも根強く、本格的な個人消費の回復には至っていない状況にあります。

このような状況下、当社グループは、経営統合後のシナジー効果創出のため、商品統合により着実に荒利益率の改善を進めているほか、さらなる成長戦略実現のために当第1四半期連結累計期間におきましても以下のとおり積極的に新規出店を行いました。

ダイユーエイトにおいて「ホームセンター白河店」(開店3月 福島県)「ワンズサイクル会津若松駅前店」(開店3月 福島県)、アミーゴにおいて「ペットワールドアミーゴ小名浜店」(開店3月 福島県)、ジョーカーにおいて「DOG&CAT JOKER東急百貨店たまプラーザ店」(開店3月 横浜市)「DOG&CAT JOKER WANCOTT店」(開店3月 横浜市)の出店により、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、187店舗となりました。

また3月1日には、ダイユーエイト及びリックコーポレーションのペット事業を統合・分社化して(株)アミーゴを設立したほか、(株)アレンザ・ジャパン(輸入卸売事業)を完全子会社化したことで、一連のグループ内組織再編が終了いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループ(当社及び連結子会社)の連結売上高は199億3千8百万円、連結営業利益は7億6百万円、連結経常利益は7億5千6百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億円となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

[ダイユーエイト]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で2.3%増加しましたが、客数が前年同期比で2.5%減少したことから、既存店売上高は0.2%減少いたしました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、春先は灯油販売額が伸長するような低温と天候不順により、前年同期と比較して季節商品販売の出足が鈍い状況にありましたが、ゴールデンウィークを境によりややく気温が上昇し、園芸、植物、用土、肥料等の売上が伸長いたしました。また、当社が注力しております木材塗料、工具金物、作業資材、作業衣料等のホームニーズ関連商品が前年対比で売上を伸ばしたほか、日用品、家庭用品等の売上も堅調に推移し、あらためて生活用品需要の底堅さを感じる期間となりました。

当期は、他業態との差別化を念頭に、従来から進めておりました「ホームセンターらしさ」をさらに強化するため、農業関連資材用品の専門バイヤーを配置し、農家需要へ対応すべく品揃えを強化いたしました。その他、防犯防災用品の強化に努めたほか、既存の概念にこだわらない新たな視点での商品組合せにより、お客様に対し需要創造を喚起いたしました。

「働き方改革」としては、社内に「働き方改革プロジェクト」を立ち上げ「ワーク・ライフ・バランス」実現のため、会社・社員の両視点から改善策の検討をしております。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント売上高は102億2千3百万円、セグメント利益(営業利益)は4億9百万円となりました。

[リックコーポレーション]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で0.4%の減少しましたが、客数が前年同期比で0.4%増加したことから、既存店売上高は0.01%増加いたしました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、前年に比べて天候が安定していたこと、チラシ掲載商品の価格訴求を強めたことから客数の増加につながりました。一方でハッピープライス（生活応援品の月間特売）等の推進により一点当たりの商品単価が下落し、客単価が減少するという状況となりましたが、総じて堅調に推移いたしました。また、酒税法の改正に伴う酒類の値上げ前の駆け込み需要も売上高増加の要因となっております。

そのような状況の中で、更なる集客力の向上を図り、家族で楽しく過ごせる地域密着型ホームセンターへ進化するため、子供の日のイベントや母の日似顔絵コンクールの実施、60歳以上の方を対象とした割引セールを行う等、ロイヤルカスタマー政策を実行し、ニューファミリーからシニアまでの幅広い年齢層の顧客に感動していただけるようなサービスを行っております。また、工務店や農家のプロ需要にも対応できるように、プロニーズプロジェクトや勉強会を実施し、品揃えの充実や人材の育成を図っております。その他、商品の機能や特性をわかりやすく比較表示したり、商品のサンプルやプロモーション動画等の販促物を活用することでお客様に新たな発見をしていただけるよう様々な形で提案を行っております。

販売費及び一般管理費につきましては、備品消耗品や水道光熱費の節約奨励や、作業計画に合わせた綿密な人員配置を行うことで残業時間の大幅な削減を進めている他、業務委託費用等の間接費の見直しを行うことで必要コストの圧縮を行っております。

これらの結果、リックコーポレーションにおけるセグメント売上高は42億4千4百万円となり、セグメント利益（営業利益）は1億9千8百万円となりました。

[アミーゴ]

アミーゴはダイユーエイト、リックコーポレーションのペット事業を統合・分社化し、3月1日より全国60店舗展開で事業をスタートいたしました。

ペット事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で0.3%の増加しましたが、客数が前年同期比0.4%減少したことから、既存店売上高が0.1%減少いたしました。

ペットの健康、美容にこだわりを持つオーナー様が増加傾向であることから、主力商品であるプレミアムフードを中心とした専門店商品の販売力が向上したこと、マイクロバブル、炭酸泉といったトリミングに付加価値をプラスしたサービスの普及が進んだことにより客単価を伸長させることができた一方で、他業態を含む競合他社による新規出店、価格競争の激化等の外部環境要因による客数の減少により、ペットシート、猫砂等の消耗品の販売数が減少したことが売上高減少の要因となっております。

そのような状況の中で、ダイユーエイト、リックコーポレーション両社の仕組み・ノウハウを継承したアミーゴは、それぞれの取り組み、サービスを全店舗に水平展開し、全店統一したサービスの実現に取り組んでおります。従来の愛玩動物である犬、猫に追随する様に、飼育しやすくトレンドになっているウサギ、ハムスターなどの小動物、爬虫類の販売強化、イベントの取り組み、専門知識を有した従業員の育成強化等の量販店とは一線を画した店づくりに徹することにより、ペット専門店としてのアミーゴブランドの確立に努めております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント売上高は38億6千万円、セグメント利益（営業利益）は4千9百万円となりました。

[その他]

セグメント売上高は32億2千6百万円、セグメント利益（営業利益）は1億1千4百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が555億9千3百万円、負債が427億2千9百万円、純資産は128億6千4百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は21.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、平成29年4月14日付「平成29年2月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表しました業績予想値に変更ありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更)

当第1四半期連結累計期間より、連結子会社である株式会社アミーゴが運営するペット専門店の一部において、通常の販売目的で保有するたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは平成29年3月1日付で株式会社ダイユーエイトおよび株式会社リックコーポレーションがそれぞれ営むペット事業を統合・分社化したことにより店舗運営の統一性、効率性を高めることを目的として、仕入・物流・販売に係る基幹システムを変更したことに伴うものであり、平成29年3月1日より新基幹システムが本稼動したことによるものであります。

これにより、従来の方法と比べて、当第1四半期連結累計期間の売上総利益、営業総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が44,016千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,105,454	7,571,855
売掛金	555,727	738,894
たな卸資産	13,664,261	14,353,380
その他	1,679,844	1,794,697
貸倒引当金	△3,213	△3,022
流動資産合計	21,002,074	24,455,804
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	30,006,349	30,197,188
減価償却累計額	△17,870,448	△18,061,400
建物及び構築物(純額)	12,135,900	12,135,787
土地	4,327,385	4,327,385
リース資産	2,640,333	2,721,216
減価償却累計額	△1,115,894	△1,179,062
リース資産(純額)	1,524,438	1,542,154
その他	2,885,090	2,782,405
減価償却累計額	△1,533,404	△1,550,441
その他(純額)	1,351,686	1,231,964
有形固定資産合計	19,339,411	19,237,292
無形固定資産		
のれん	2,501,401	2,469,332
その他	1,741,031	1,768,153
無形固定資産合計	4,242,433	4,237,486
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,361,147	5,290,793
その他	2,498,326	2,434,353
貸倒引当金	△62,185	△62,087
投資その他の資産合計	7,797,289	7,663,060
固定資産合計	31,379,133	31,137,838
資産合計	52,381,208	55,593,643

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,688,948	4,927,447
電子記録債務	3,000,477	5,277,340
短期借入金	4,550,000	5,040,000
1年内返済予定の長期借入金	4,374,749	4,251,687
リース債務	530,194	542,038
未払法人税等	259,836	343,654
その他	3,677,562	4,624,345
流動負債合計	21,081,768	25,006,512
固定負債		
長期借入金	13,975,625	13,054,562
リース債務	1,280,870	1,311,606
退職給付に係る負債	432,382	441,855
役員退職慰労引当金	71,670	73,307
資産除去債務	973,424	961,188
その他	2,007,919	1,880,349
固定負債合計	18,741,892	17,722,869
負債合計	39,823,660	42,729,382
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	4,375,368	4,375,368
利益剰余金	5,249,950	5,558,740
自己株式	△164,809	△165,058
株主資本合計	11,460,509	11,769,049
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	91,512	83,714
退職給付に係る調整累計額	△17,655	△15,651
その他の包括利益累計額合計	73,856	68,062
新株予約権	41,614	41,614
非支配株主持分	981,566	985,533
純資産合計	12,557,547	12,864,260
負債純資産合計	52,381,208	55,593,643

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
売上高	19,938,717
売上原価	13,316,064
売上総利益	6,622,653
営業収入	680,640
営業総利益	7,303,294
販売費及び一般管理費	6,596,319
営業利益	706,974
営業外収益	
受取利息	8,372
受取配当金	357
受取手数料	79,285
その他	44,009
営業外収益合計	132,024
営業外費用	
支払利息	52,496
借入手数料	6,014
その他	24,396
営業外費用合計	82,907
経常利益	756,091
特別利益	
固定資産売却益	4,210
受取損害賠償金	46,015
特別利益合計	50,225
特別損失	
固定資産除却損	3,779
特別損失合計	3,779
税金等調整前四半期純利益	802,537
法人税、住民税及び事業税	358,122
法人税等調整額	△63,882
法人税等合計	294,240
四半期純利益	508,297
非支配株主に帰属する四半期純利益	7,783
親会社株主に帰属する四半期純利益	500,514

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
四半期純利益	508,297
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△7,938
退職給付に係る調整額	2,003
その他の包括利益合計	△5,934
四半期包括利益	502,362
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	494,720
非支配株主に係る四半期包括利益	7,642

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

当第1四半期連結累計期間より、連結子会社である株式会社アミーゴが運営するペット専門店の一部において、通常の販売目的で保有するたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは平成29年3月1日付で株式会社ダイユーエイトおよび株式会社リックコーポレーションがそれぞれ営むペット事業を統合・分社化したことにより店舗運営の統一性、効率性を高めることを目的として、仕入・物流・販売に係る基幹システムを変更したことに伴うものであり、平成29年3月1日より新基幹システムが本稼動したことによるものであります。

これにより、従来の方法と比べて、当第1四半期連結累計期間の売上総利益、営業総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が44,016千円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 当第1四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計
	ダイユー エイト	リックコーポ レーション	アミーゴ	計		
売上高(注)2						
外部顧客への売上高	10,092,662	4,158,662	3,860,421	18,111,746	2,507,612	20,619,358
セグメント間の内部 売上高又は振替高	130,680	85,704	—	216,384	719,254	935,639
計	10,223,342	4,244,366	3,860,421	18,328,130	3,226,867	21,554,998
セグメント利益	409,459	198,791	49,645	657,896	114,593	772,490

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイユー・リックホールディングスにおける取引等のほか、ダイユー・リックホールディングス、ダイユーエイト、リックコーポレーション及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

(注)2 売上高には、営業収入を含めております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	657,896
「その他」の区分の利益	114,593
セグメント間取引消去	△47,387
のれんの償却額	△32,069
固定資産の調整額	13,941
四半期連結損益計算書の営業利益	706,974

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より連結子会社であった株式会社アミーゴに対して、3月1日付でダイユーエイト、リックコーポレーション両社のペット事業を会社分割したことにより「アミーゴ」を新たに報告セグメントに含めております。

また、前連結会計年度において、報告セグメントとしていた「日敷」は、金額的重要性が乏しいため、「その他」に含めて記載する方法に変更しております。

4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度より連結子会社であった株式会社アミーゴに対して、3月1日付でダイユーエイト、リックコーポレーション両社のペット事業を会社分割したことにより「アミーゴ」を新たに報告セグメントに含めております。

当該会社分割により、「ダイユーエイト」の資産の金額が547百万円減少、「リックコーポレーション」の資産の金額が4,233百万円減少し、「アミーゴ」の資産の金額が4,780百万円増加しております。

4. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。